

リレー連載生ヒストリー温故知新

第11回 滝澤 進さん (61期)

故郷との“きずな”を求めて

(会長就任)

私は、2011年(平成23年)7月、日本中が東日本大震災で打ちひしがれ、強い“きずな”が求められているとき、白井 透前会長(60期)からバトンを引き継ぎ、2014年(平成26年)6月までの3年間、関東同窓会会長を務めました。

同期(61期)の笠井徳爾君(当時、副会長)や井上 剛君(元編集長)から会長就任の打診があったとき、まだ現役で仕事を続けていたこともあり、正直、戸惑いがありました。が、故郷を離れてから50年、故郷との“きずな”を取り戻すためには、引き受ける以外の選択肢はありませんでした。

(会長としての思い)

私は、このような思いから、在任中、関東同窓会が、故郷を離れて暮らす同窓生の“きずな”として、都会のオアシスのような存在になるよう目指し、他の役員とともに、知恵を絞り、全力を尽くしました。

この3年間の経験を通して改めて感じたことは、長年の諸先輩の献身的な活動により育まれてきたこの同窓会の素晴らしい伝統であり、多くの会員が如何にこの同窓会に熱い思い入れを持ち、温かく支えてくださっているかということでした。

(同窓会の運営)

実際に関東同窓会の運営に当たってみると、この組織が、ボランティアによって運営されているとはとても思えない、随所に工夫が凝らされた、素晴らしい組織であることが分かりました。

また、ともに運営に当たってくださった同窓会の役員幹部には、素晴らしい人材が揃っていましたので、皆さんの力を結集し、創意と工夫を凝らしたチームワークで同窓会の活動を活発化していくことが、何よりも重要だと感じました。

このため、メールを活用しつつ、まず、幹部会(会長、副会長、幹事長、筆頭副幹事長等で構成)で、直面する課題について、徹底した議論を重ねました。

(アクションプラン2012)

関東同窓会としての変わらぬ命題は、まず、同窓会を如何に魅力あるものとするかにありますが、そのためには、総会、新年会、会報、ホームページ等をどのように充実したものにすることが重要です。また、活動に必要な財源の確保のためには、同窓会を魅力あるものとするための努力を重ねつつ、年会費や寄付金を如何に増やすかについて、知恵を絞る

必要があります。少しでも前向きな成果が得られるよう、1つ1つの事柄について、役員等と地道な検討と努力を重ねました。

また、関東同窓会の更なる活性化のためには、当面する課題を大括りで整理し、課題解決に向けて、解決の方法や手順を皆で共有することが必要だと感じました。

そこで、幹部会で議論を重ね、「同窓会をより身近な、親しみある存在」として会員の皆さんに実感していただけるよう、2012年4月の幹事会に、5つの柱（「ITの活用」、「若手会員層の取り込み」、「学生会員の社会デビュー支援」、「会員交流の推進」、「女性会員交流の推進」）からなる「アクションプラン2012」を提案し、賛同をいただきました。

このプランの実行のため、5つのプランごとに、役員等をトップとする推進委員会等を設け、それぞれの委員会等による自主的な活動を促し、3年間で、逐次、プランを実行に移していきました。

例えば、「ITの活用」では、2013年1月に、ホームページの全面改訂が実現しました。

また、「会員交流の推進」では、2012年8月、同好会として、「やまびこ句会」が発足しました。さらに、2013年3月に故丸山瑛一先輩（51期）を講師として講演会「赤松小三郎と明治維新」を開催し、その成果を活かして、同年8月、「赤松小三郎研究会」が発足しました（この間の経緯等については、小松正佳氏（当時副会長、64期）の寄稿をご参照ください）。

（本部等との連携）

また、関東同窓会の運営には、本部同窓会や各地の支部等との密接な連携とともに、松尾倶楽部や白井前会長の情報メール等と相乗的な効果を発揮できるような工夫が必要と考え、可能な限りその実現のために努力しました。

特に、本部とは、白井透前会長（60期）のご指導をいただきつつ、理事長の日置勇二先輩（60期）と密接な情報交換等を行いました。また、母校のスーパーグローバルハイスクール指定に向けてのお手伝いをしたことや当時東大の医学部教授であった故渡邊聡明氏（75期）をご一緒に訪問したことなどが思い出されます。

（改めて思うこと）

私は、2014年6月、高梨奉男氏（62期）に、関東同窓会の会長を引き継ぎました。

振り返ってみますと、会長として、一騎当千の役員の方々と、同窓会活動の充実・強化を目指して議論と実践を重ねた日々は、私にとって、何ものにも代えがたい貴重なものでした。

新型コロナウイルスの感染の拡大により、同窓会の運営にはこれまで以上に難しい課題が多くあるかと思いますが、逆境を跳ね返し、厳しい環境下での同窓会の運営に全力で取り組んでくださっている現役役員の方々の皆さまのご努力、ご尽力に、心から敬意を表します。

日本の社会は大きな変化を遂げ、同窓会をめぐる状況も変わりつつありますが、この同窓会の伝統を守るためには、今後とも、同窓生が一丸となって、同窓会を若手会員を含む多くの会員にとってより魅力あるものとするための努力を積み重ねていく必要があると思います。

多くの卒業生の皆さまが、故郷との“きずな”を深めるため、また、それを確かめるため、同窓会の活動の輪にいつそう積極的に加わってくださるよう切望いたします。

(役員)

終わりに、私の会長在任中、同窓会運営等で特にお世話になった主な役員等のお名前を記します（敬称略）。

顧問（I T担当）	笠井徳爾（61期）
副会長	栗山正雄（62期）、小松正佳（64期）、上原昇（65期）、 水島良子（67期）
幹事長	栗山正雄（62期、2011年7月—2012年6月） 丸山暢久（65期、2012年6月—2014年6月）
会計長	倉沢裕（69期）
編集長	故真山隆夫（62期）
筆頭副幹事長	小山平六（62期）
副幹事長（I T担当）	原田義則（65期）
副会計長	和氣寿子（75期）
監事	荻原隆治（61期）、藤巻禮子（64期）



(第50回総会で会長就任の挨拶)